

『やまんば』

大塚恵美子

【登場人物】

チカマツ

ハナノ

ヤエギリ

サカタ

イワナガ

老婆

部屋の中。
雑然とした部屋の中。
ひびく蒸し暑く、ほろほろ。

老婆・・・なのだろうか、年齢不詳の女が部屋の中にいる。
ほつれた白髪に、汚い服。
老婆の周りには花束、缶ジュース、みかん、お菓子などが置いてあり、彼女はおもむろに菓子の一つをあけて、鼻歌など歌いながら満足そうに食べ始める。

ややあって、女が入ってくる。
手には花束。

そして菓子がいっているのとおほしき袋。

チカマツ あ・・・不法侵入者発見。

老婆 あんたこそ。

チカマツ ま、そうだけぞ。

老婆 また来たね。

チカマツ また・・・会いました。

老婆 ども。

チカマツ 調子はどう？

老婆 相変わらず。

チカマツ だろうね、そんな顔してる。
ここに来るのに入ら入らしては来られないでしょう。

老婆 来る頃かなーって、虫のしらせかね。
私も、なんか、おばちゃん居そうな気がしてた。

チカマツ あら、うれしい。こんなぼろ雑巾に会いにきてくれるなんてね。
いや、会いにきたわけじゃないよ。メインは、これ(花束を示す)

老婆 素直に認めなさいよ。かわいげのない。
いや、本当だって。

チカマツ はいはい、あたしなんかとこんな所でひそひそやってるの見られたらご近所
いろいろ噂されちゃうもんねえ。
なにすねてんの。

老婆 されない？

チカマツ される。絶対される。特に奥さん連中には要注意。何言われるかわかんない。

老婆 こわいね。

チカマツ (汗をぬぐう)・・・なんか、だんだん荒れてくね、じじ。

老婆 そお？空き家にしては状態いいほうだと思っけど。

チカマツ ま、おばちゃんの本宅の段ボールよりはましかもしれないね。

老婆 何言ってるの。段ボールハウスを馬鹿にするとはちあたるよ。こんな無駄に大
きなところよりもずっと居心地がいいんだから。

チカマツ そっなの？

老婆 ほんとほんと。一度棟もぐとやみつきにならなから。雨に弱いのがたまに傷だけど。

チカマツ ああ、雨ね。

老婆 あたしは、基本的にはね、屋根のある場所って落ち着かないからいやなんだけ
ど、明日から強く降るらしいから、はやめに避難してきた。

チカマツ 大変ね。

老婆 なんのなんの、気楽なもんよ。あ、ごめんね、これ、またいただいてる。

チカマツ どうぞ。このままここで腐らせちゃうよりはいいから。でも・・・

老婆 よかったあ。ありがとうー。昨日あたしの縄張りにわけのわかんない新入りは

いつてきちゃってさ、一番入りのいいごみ箱先にあさられちゃったのよ。(と、おもむろに菓子をがっつきだす)

老妻 老妻 老妻
でも、大丈夫？それだいたい前のやつで多分賞味期限・・・
関係ない関係ない。(におう)うん、大丈夫大丈夫。

老妻 老妻
でもそれが原因でお腹壊したりとかしたら、私もちょっと・・・
チカマツ シントウメッキヤクすれば何事も大丈夫。「このくらい賞味期限切れが怖かったらこんな生活できませんって。(もりもり食べる)

チカマツ、舞台の下手の方に花束と菓子類を「お供え」のように置いて、やや上方を眺め、それから神妙に手をあわせる。

どこからか、琵琶の音がする。

チカマツ あれ・・・三味線？

老妻 ああ、ありゃ、琵琶だね。

チカマツ 琵琶。

老妻 琵琶。あの耳無し法師が、へんべんべんって。

チカマツ ああ・・・おばちゃんよくわかるね。

老妻 おばちゃんはこう見えてもインテリなんだよ。

チカマツ 外・・・よね、近所かな。

老妻 さあねえ、どっかに琵琶好きが住んでいるんじゃないの？

チカマツ 琵琶好きって。いまどき。

老妻 ああ・・・そういえば、あの時もへんべんべんべん鳴ってたっけか。

チカマツ そうなんだ・・・(上を見ろ)

老妻 空き家にひびく琵琶の音・・・なんか雰囲気があつていいじゃない。(おもむろに十字を切って)なんまいだなんまいだなんまいだ・・・お宅様のおかげでわたしの食生活が非常に助かっております、南無阿弥陀仏なんまいだ

化けてでらわねよ。

チカマツ いや、まじめですよ。私は。

老妻 でも、どうかな・・・化けて出てもその辺にポーっと立ってるだけで、どう祟

チカマツ ったらいいかわからないかもね。あの人。

老妻 あんた、時々すごくきついこと平気で言うね。

チカマツ よく言われる。気を付けてるけど、直らない。

老妻 まあ、そういうのって、死ぬまで直らないだろうけどね。

チカマツ おばちゃんもそんなはつきり。

老妻 あたしのこれも死ぬまでなおらないの。

チカマツ かもしれない・・・あ、これは、もうちょっと食べないで置いといてくださいな。

老妻 はいよ・・・そろそろ一年かね・・・

チカマツ え？

老妻 去年の今ぐらいいじゃなかった？

チカマツ ああ・・・

老妻 実はね、あたしはね、助かってんの。前はね、近所の悪がき連中が「空き家探検」秘密基地」とかなんとかやたら遊びに来るからうきうきたたくてしようがなかったけど、あれ以来みんな気味悪がって近づかないから、ゆったり幸せな別荘ライフが送れるってわけ。化けてこへれたらさっからお祝いなよなよな。

チカマツ ちよとご一年。来週で。

老妻 そつたよねー。月日の経つのは早いねー。びっくりにしたもん。あたしもいろいろ修羅場へくっってきたけどさー。あんなの生で見たのはじめてだったから。

チカマツ うん。

老妻 あのとときも雨降りそつたさ。降り出す前って、こっちに来て見たらびーらん

チカマツ

ぶーらん。

老婆

ああ・・・

チカマツ

気の毒な事したね、まだ苦かったのに。

老婆

そうねえ。

チカマツ

子どもは、どうしてんの？

老婆

お父さんの方の実家にひきとられて、幼稚園も変わっちゃったから・・・どうしてののかな。

老婆

ああ、そうなの・・・(突然)アプー

チカマツ

なに・・・？

老婆

アプー

チカマツ

なんか変なものを食べた？

老婆

おまじない。自分が暗くてきつつい顔になったら、アプーってね。やっけてらん。

チカマツ

いいよ。どんな顔でも。どうせ死ぬまで直らないんだから。

老婆

努力くらいしてもバチはあたんないでしょうが。

チカマツ

努力と言う単語はおばちゃんに一番似合わないと思うけど。

老婆

人生の先輩の言う事はちゃんと聞きなさい。はい、こー一緒に。アプー。

チカマツ

・・・アプー。

老婆

はい、よくできました。

チカマツ

あのさあ、おばちゃん。聞いてくれる？

老婆

はいよ。

チカマツ

・・・おばちゃん、幸せ？

老婆

なにさいきなり。

チカマツ

あたしもホームレスになっちゃおうかなー。

老婆

そんな簡単にいかないよ。

チカマツ

だってさっき気楽だっかってたってたじゃない。

老婆

それは私くらいホームレス道をしっかりきわめた者だけが言える台詞。あんた

チカマツ

には無理無理。

老婆

そうかな。

チカマツ

そう。

老婆

体は丈夫だけど。

チカマツ

そついう問題じゃないの。

老婆

そっかー。

チカマツ

どうしたのさ。またもめたの？家で。

老婆

んー。

チカマツ

なになに。

老婆

ちよっとへビーなんだけど、いい？

チカマツ

へビー結構。どーんと来て。

老婆

ちよっとね、やばいの。うち。

チカマツ

旦那とうまくいかないのは今に始まった事じゃないんですよ。

老婆

まあねえ・・・それはそうなんだけど。

チカマツ

せいぜい塩辛いものいっぱい食べさせて熱い風呂にがんがん入れて早死にさせることね。

老婆

毎日家に帰ってくるんだったら絶対そつしてやるんだけど。帰ってこないから、

チカマツ

あんまり。

老婆

あー、もう末期症状だね。

チカマツ

そつなのよねー。

老婆

旦那は頼りにならないから子育てに燃えるとか言ってたじゃない。

チカマツ

まあね・・・

老婆

えらくお金がかかったんでしょ。産むまではなあ。大事な大事な一粒種なんでしょ。

チカマツ

まあね・・・

老婆

えらくお金がかかったんでしょ。産むまではなあ。大事な大事な一粒種なんでしょ。

老婆

えらくお金がかかったんでしょ。産むまではなあ。大事な大事な一粒種なんでしょ。

チカマツ
老婆

その子どもが問題なのよ。
よっ君だっけ？ぶっ君？もっ君？

チカマツ
老婆

たっ君。タクヤ。そっ。年長さんになってね、自己主張も激しくなってきたね。
子どもなんてそうやって成長していくもんじゃないの？

チカマツ
老婆

おばちゃんは、子ども育てた事ある？
そりゃまあ、まあね。

チカマツ
老婆

・・・似てきているの。旦那に。
は？

チカマツ
老婆

だんだんね、旦那にそっくりになってきたの。顔とか、口調とか、仕草まで。
そりゃね、親子なんだから。

チカマツ
老婆

私にはちっとも似てないの。
はあ・・・

チカマツ
老婆

旦那は今日も帰ってこない、子どもと二人っきりで夕ご飯食べてるでしょ、それで、ふと顔を上げて息子見ると、食ってる仕草が旦那そっくりなの。旦那のミニチュアが夕ご飯食べてるの。私の目の前で。あたし、なんか見てはいけないもの見たような気がして、鳥肌がたっちゃって・・・

チカマツ
老婆

ああ・・・
鳥肌我慢してるとね、今度は頭の中、脳みその表面に鳥肌たってるような気がしてきてね・・・

チカマツ
老婆

うん。

チカマツ
老婆

鳥肌のひとつひとつにこうムククの叫びみたいな顔がついてきて、いらいらしてくるからひとつひとつぶちぶちぶしていくと、いちいち「やめてー」とか「だめー」とか声あげるから、あたしもうなんだかこう気持ちぐちゃぐちゃになっ

チカマツ
老婆

アプー。

チカマツ
老婆

・・・ああ・・・
あんた、大丈夫？だいびきてるね

チカマツ
老婆

・・・ごめんね、おばちゃん。
あんたトモダチじゃないの？

チカマツ
老婆

いるよ・・・幼稚園のお母さんたちとか。
あたしなんかよりそういう人に愚痴こぼしたら？

チカマツ
老婆

愚痴じゃないよ・・・告白だよ。
なんでもいいけどさ、お母さん連中だったら立場近いからわかってもらえそ

チカマツ
老婆

しよ。
でもねえ、みんな、若いお母さんばかりで。私一人だけ、ぼつんと年上で、

チカマツ
老婆

なんだかね・・・

チカマツ
老婆

だからってあんたこんな浮浪者に人生相談じゃ世間が・・・
相談なんかしてないよ。告白だってば。

チカマツ
老婆

ああ、はい。よしよし、聞いてあげるからもっと・・・あれ？
ん？

チカマツ
老婆

あれ、あれあれあれ？？
どうした？どうしたの？

チカマツ
老婆

いや、ちよっとお腹が、あれえ？？
ほらあ、何でもかんでも食べるから。トイし？

チカマツ
老婆

あ、いや、我慢できる範囲かも・・・あれ？
いいから、行って行って！

チカマツ
老婆

はいはい。ちよっとごめん。あれ？あれれれ？（とお腹をかかえて足早にトイし）
（奥へ）でも、トイして水道、止まってるでしょ。

チカマツ
老婆

（奥から叫び返す）井戸水ポンプでくみ上げるやつが裏庭にあんの・・・

一人残されたチカマツ、さっき「お供え」をした上の方を眺めている。
玄関の方から「ごめんください」という声がする。

チカマツ え？

すぐに二人の女が入ってくる。ハナノとヤエギリである。
チカマツは慌てて逃げ出すか隠れようとするが間に合わなくて鉢合わせ。
女たちはバケツとか箒とかを持っている。

ハナノ ごめんくださいーい・・・あれ！？チカマツさん！

チカマツ ども。久しぶり。

ハナノ ああ、そうですね。

チカマツ

ハナノ

最近、なかなか集りに顔出せなくて・・・ハナノさんもなんか体調崩してたって聞いたけど・・・ちょっと痩せた？

まあ、ぼちぼちです。入りの口に靴あったから誰かいるとは思ってたんですけど、びっくりした。なにやっていますか・・・(花束に気がついて)あ・・・

チカマツ まあ、そういうこと。

ハナノ ああ、そうですね。

チカマツ 変？私がこんなことしたら。

ハナノ いえ、そんな事はないです。

ヤエギリ ああ。あれかあ。(「お供え物」の上の方をみている)

ハナノ うん、そう。

ヤエギリ ・・・・いいなあ・・・うらやましい

チカマツ え・・・あの、ハナノさん、こちら・・・

ハナノ ああ、ヤエギリさん。幼稚園の頃からの親友で、今うちに泊まりに来てるんで

すよ。ヤエちゃん、こちら、チカマツさん。

ヤエギリ どうも。

チカマツ ああ、(ヤエギリに)どうも。

ヤエギリ ・・・・どんな人だったの？

ハナノ え？

ヤエギリ このひと。

チカマツ ・・・・自分の子どもが他の子よりも発育が遅いんじゃないかって悩んで、夜

な夜な退屈な相談電話でトモダチを悩ませてた人。そんなにぐずぐずするくらい

いならいっそ死んじやえばって言われて死んじやった・・・言ったのは私だけ

どね。

チカマツさんのせいじゃありませんって。

ハナノ いいのいいの。私が言わなくても誰かが言うんだから。

チカマツ ヤエギリ、まだはじまらないんだったら、タバコ、吸ってきていい？

ヤエギリ、出て行く。

ハナノ

チカマツ ・・・・チカマツさん、お一人ですか？

ハナノ あ。ああ・・・

チカマツ

ハナノ

一人でこんなところ来ると危ないですよ。最近この辺物騒なんですって。シン

ナー吸う人とかいたりして、あたしなんか、そういう人に出くわしても大丈夫

なように、ほら(防犯ブザー)・・・まさか変な人入ってきてきたりとかしてませ

んよね。

チカマツ ああ、大丈夫。あたし一人だから。

ハナノ さっきパトカーが何台かサイレン鳴らしながら走ってたから、なんかちょっと

怖くて。

チカマツ

そうなの？

ハナノ

浮浪者なんか見たらすぐ警察呼べるようにしてますから。

チカマツ

浮浪者だから危険とは限らないでしょう。

ハナノ

だって、気味悪いですよ。

チカマツ

ハナノさんこそ、どうしたの？こんな“物騒な”場所に。

ハナノ

ああ、これ（と掃除道具を示す）

チカマツ

なに？

ハナノ

掃除。

チカマツ

こんなとこ掃除してどうすんの？

ハナノ

来週でしょ。

チカマツ

え？

ハナノ

あれから一年。

チカマツ

・・・うん。

ハナノ

だからね、すみれ組みのお母さんたちみんなで、お参りした方がいんじゃないかな

チカマツ

いかって。

ハナノ

お参り？どこで？

チカマツ

はい。

ハナノ

みんなって・・・結構な数じゃない。

チカマツ

はい。

ハナノ

お参りならお墓にいけばいいでしょ。こんなところじゃなくて。

チカマツ

だってお墓は実家の方でしょ。遠いじゃないですか。ここなら近所だし。

ハナノ

そりゃそうだけど。いいの、勝手にそんなことして。

チカマツ

一応、役所に問い合わせさせて管理している不動産屋は教えてもらったんですよ。

ハナノ

でも、そこはもう潰れてて、誰の家かさっぱりわかんないんで・・・まあ、い

チカマツ

いかって。チカマツさんだって何回も来てるんですよ。

ハナノ

私は、だから・・・えー、いいのかなあ。

チカマツ

でも、サカタさん一度言い出したら、あれだから。

ハナノ

サカタさん？

チカマツ

そ、彼女が音頭とって。

ハナノ

ああ。

チカマツ

仕事持っているお母さんには頼めないでしょう。こういう時こそ、私たち專業

ハナノ

主婦軍団の出番だって。

チカマツ

軍団って、チバシンイチか。

ハナノ

え？

チカマツ

知らない？チバシンイチ。忍者。影の軍団。（真似を試みる）

ハナノ

すみません・・・

チカマツ

いや、いいの。いいの。そうよね、世代違うもんね。ハナノさん物心ついてな

ハナノ

かったかもね。

チカマツ

いや、サカタさんが・・・私たちって、「同士」なんですって。

ハナノ

（突然）アプー。

チカマツ

・・・アプー。

ハナノ

可愛いですか？

チカマツ

可愛い？

ハナノ

あ、ええ。ええ・・・ダメですか？お参りとか。

チカマツ

いいえ、ちっとも。アプー。

ハナノの携帯が鳴る。慌てて電話に出るハナノ。

ハナノ　もしも・・・はい。はい。あ・・・だって・・・いえ、すみません・・・

ハナノ、二人を気にしながら外に。電話の会話を聞かれたくないようにも見える。

ヤエギリ　旦那だな。

チカマツ　え？そんなの？

はい。着信音がねー。特別なんです。笑っちゃいますよね。「オンリーユー」なんて。

チカマツ　・・・ハナノさんのご主人ってハンサムよね。優しいさうだし。うらやましいな。

ハナノが携帯をたたみながら戻ってくる。

チカマツ

旦那さん？

ハナノ　ええ、まあ・・・さ、さっさとやっちゃいましょう。サカタさん来るというのだから。

チカマツ

え？来るの？

ハナノ

来ますよ。サカタさんとイワナガさんと二人でもうすぐ。

チカマツ

ああ、これ、気合いいないと綺麗になりませんよね・・・チカマツさんも手伝

ハナノ

ってくれます？

チカマツ

あー、どうしようかな・・・リカちゃんは？

ハナノ

ここ終るまでサカタさんのお家で預かっていただいています。ちょうどパパさん

チカマツ

がお休みで、面倒みてくれてるんです。

ハナノ

二人で遊んでるの？リカちゃんとマー君と。

チカマツ

たぶんイワナガさんもモエノちゃん頼んでるはずですけど。

ハナノ

マー君には気をつけたほうがいいわよ。

チカマツ

はい。

ハナノ

：タクヤがこのあいだマー君に家来になれって言われて断ったらたたかれた

チカマツ

って、それも、砂遊び用のスコップで。怪我がなかったからよかったけど。

ハナノ

え。本当ですか？

チカマツ

本当本当。

ハナノ

リカは大丈夫みたいですけど。

チカマツ

リカちゃん如才ないからね、あなたに似て。モエノちゃんもやられたんじゃないな

ハナノ

いかしら。幼稚園バス待っていると見えただけど、この辺にあざつくってた

チカマツ

わよ。イワナガさん気がつかないのかな。あの親子もすごく似てるよね。モエ

ノちゃん。

ハナノ

ああ。それは・・・

チカマツ

なに。

ハナノ

モエノちゃんのおれ、たぶんマー君じゃないです。

チカマツ

えー、だったら誰？マー君以外には思いつかないけど。

ヤエギリ

そんな乱暴な子いるんですね。

チカマツ

そつなのよ、ちょっと性格に難があってね・・・

ハナノ

（唐突に）チカマツさん、最近の・・・最近の国会についてどう思いますか？

チカマツ

え？なに？

ハナノ

国会。

チカマツ

国会って・・・あの国会？

ハナノ

いや。どうかなって・・・

チカマツ

っていうか、ねえねえ、マー君ってさ、特にお母さんにさっくりおよね。

ハナノ

そうですか？

チカマツ

家では自分が王様みたいに仕切っちゃうんだってね。

ハナノ (また唐突に) タルコナコーヒーって知ってます?
チカマツ ううん、知らない。それで、そのマー君がね・・・
ハナノ ヤエちゃん、これゴミ袋に入りきれないから玄関に持っていてくわね??

ヤエギリ、玄関へ

チカマツ ・・・・ハナノさん、どうかしたの??

ハナノ え?なにがですか??

チカマツ 子どもの話題、避けてない??

ハナノ そんなことないですよ。

チカマツ そうかな。

ハナノ いや・・・たまには子ども以外の話とかしてみてもいいかなって。そう思いま

せん??

チカマツ まあ、そうねえ、私たち、会うと子どもの事ばかりだもんね・・・

ハナノ ですよ。

チカマツ 子ども以外の話題・・・

ハナノ はい。

チカマツ 子ども以外・・・オリンピックとか(あまり広がりそうにない話題である)

ハナノ ああ(曖昧に答えるしかない)

チカマツ ダイエット、とか。

ハナノ ・・・・

何回か絶望的な試みをやっている最中にトイシの方から大きな声がする。

老婆が「紙がないー!」と叫んでいるのだが、それはチカマツにしかわからない。

トイシは建物の奥にあるらしく、ハナノとヤエギリにはなにか怪しいものの雄たけびのよう
に聞こえる。

一同 え・・・??

老婆 「あ痛痛痛・・・」

ハナノ ・・・・誰かいぬ??

チカマツ あ?ああ、それは

老婆 「うおおお・・・出たー!」

ハナノ いやだ、誰??

チカマツ 酔っ払いかなあ。外、外。あ、裏庭で猫が・・・

老婆 「あ・・・私の馬鹿ー!」

チカマツ ・・・・馬鹿って言ってるね。

ヤエギリ マッカリン。

ハナノ え??

ヤエギリ マッカリンかもしれない。

ハナノ ああ、マッカリン。

ヤエギリ ここ、マッカリンの家??

ハナノ うそ、やめてよ。怖い。

ヤエギリ そうだよ、マッカリンだ。

チカマツ マッカリンってなに。

ヤエギリ いるんですよ、そういう怖いのが。

チカマツ 怖いの??

ヤエギリ すごく怖いお化けなんです。悪い事きかしてると「馬鹿ー!」って追いかけてきて、

時々連れてかれるの。

チカマツ なんてそんな名前なの??

ヤエギリ さあ・・・連れてかれた人は魂をぬかれてね、家の事も、家族の事も忘れちゃうらしいです。
チカマツ それってあれ？ナマハゲみたいな感じ？
ハナノ 近いものはありますね。

ふたり、マッカリンよけの呪文を唱えてその場にしゃがみこむ。

老婆 「助けて〜。お〜い。」

ハナノ (チカマツに) 警察に電話した方がいいですかね。

チカマツ 警察とか、だめよ。

ハナノ え？どうしてですか？

老婆 (「紙〜、紙ないんだけど」)

ハナノ カミがどうとか言ってますね？

チカマツ そう、最近の社会情勢、神も仏もないわよね。近所に怪しい宗教の人でもいる

のかな・・・そう〜さっき、琵琶の音とかも聞こえてたの。ちょっとあたし・・・

あっち、見てごようかな・・・

ハナノ 大丈夫ですか？

チカマツ あ。奥、この間こーんな巨大ななめくじが大量にうごうごしてたから行かない

方がいいかも。私は平気だけど。なめくじとかゴキブリとか。ぜんぜん。ああ

(防犯ブザー) これ、借りるね、なにか怪しい人がいたら鳴らすから。その時

は、警察。

ハナノ ああ・・・

チカマツ、トイレの方へ消える。

ヤエギリ (ハナノが立ち上がろうとするので) あ、もうちょっとうとうとしてようよ。

ハナノ えー。リカにみられたらママなにやってるの、って馬鹿にされちゃうかも。

ヤエギリ うん。タイガもそう言っね。

ハナノ ああ・・・

ヤエギリ きっとそう言っね

ハナノ マッカリンかあ、なつかしいなあ。ねえ。

ヤエギリ うん・・・

ハナノ タバコ屋のとなりの空き家にとっそり入って秘密基地作って遊んだよねー。

ヤエギリ それがばれてしかられて、そんなに悪い子のところにはマッカリン来るよって

そしたら来たよね。本当に。今みたいにどこか近くで「うおおお」とか「お

くい」とか叫んでた。怖かったー。

ヤエギリ そうそう・・・なつかしいよね・・・楽しかったよねー、あの頃は。

ハナノ うん。

ヤエギリ あのさ。

ハナノ うん。

ヤエギリ もし、もし本当にマッカリンがいたらさ、あたし、頼みたい事があるんだよ

ね・・・

急ぎ足で戻って来るチカマツ。

チカマツ あれ、まだマッカリン除け。

ハナノ ああ。(二人、立ち上がる)

チカマツ 奥、かなり気味が悪いけど、なんにもいなかったよ・・・あ、あたし、ちょっと

ハナノ コンビニに行ってくる。

チカマツ
だつて、ほら、あの、私、手伝つから、掃除。掃除するなら手袋とかいるでしょ。私敏感肌だから、だから、ちよつと・・・あ、なにか他にしているもの、ある？
ハナノ
いえ・・・どうかしたんですか？
チカマツ
どうもしない。じゃ、ちよつと。

いそいで出て行くチカマツ

ヤエギリ
ハナノ
クイヨームネ。クイヨームネ。
ヤエちゃん、大丈夫？
うん、楽しいよ。

ハナノ
ヤエギリ
ならよかつたけど。
最近ね、調子がいいんだ。薬も軽いのに変わったし。あ、あたしに気使わなくていいからね。大丈夫だから。子どもの話題もＯＫだよ。
そつ。

ハナノ
ヤエギリ
連絡してくれてうれしかったよ。カウンセリング受けてるお医者さんからね、積極的に外に出なさいって言われているし。こんな私でも役に立てればねー。
私もヤエちゃんにきてもらってすく助かっている。ごめんね、お礼が遅くなっちゃった。家じゃこんな話できないから。

ヤエギリ
旦那さん、やさしそつだったじゃん。出かけるって行っても嫌そつな顔もしなかつたし。

ハナノ
他の人がいるときはいつもそつ。ヤエちゃんが来てくれなかつたら絶対家から出られなかつたと思う。

ヤエギリ
ハナノ
見えないよね。そんな風には。
誰に相談しても信じてもらえなかつて。
それで、どうすんの？
うん・・・

ヤエギリ
ハナノ
まだ考えてるんだ。
ねえ、どうしたらいいと思う？
その質問、昨日からもう聞き飽きた。
大丈夫かな、うまく行くのかな・・・

ヤエギリ
ハナノ
もー。役所の人が全部面倒見てくれるんでしょ。体一つで行けばいいんでしょ。そつなの。
私がついていってやるからさ、今日にでも逃げなよ。このままだったら、きつとあんたいつか殺されちゃうよ。リカちゃんがかわいそうじゃん、そんなことになつたらさ

ハナノ
それはそうなんだけど
リカちゃんと一緒にいられるだけ、あたしよりもずっと幸せじゃん。
・・・
こんな目にあわされても未練あるの？
そんなことない。でもね、リカの為には、父親がいたほうが・・・
本当に？

ヤエギリ
ハナノ
あ、固まった。

少し沈黙。出て行くこつとすゑるヤエギリ

ハナノ
ヤエギリ
何処行くの？
ほごりつぽくつぽ。じじ。

ハナノ、ヤエギリを引きためて、その背中に顔を埋めぬ。

黙ってそのまま出て行くヤエギリ。
そのまま一人残されるハナノ。

老婆がひょっこりと上半身だけ物陰からのぞかせる。

老婆 あのうち・・・

ハナノ ・・・？

老婆 あのうち・・・

ハナノ ・・・！

老婆 はじめまして。

ハナノ (謎) (謎)

老婆 あの一怪しいものではありませんーお願いがー！

ハナノ ・・・

老婆 すみません・・・お願いがあるんですけど、どうですか？

ハナノ ・・・はい・・・

老婆 そことこの紙、ありません？

ハナノ ・・・はい。

老婆 紙

ハナノ 紙・・・紙って、あの、紙ですか？

老婆 そう、できねばなるべくやわらかいのを・・・いや、待ってろって言われたん

ですけれど。そっそも待っても届かれないままで(なぐとぶとぶと探す)

ハナノ あ、柔らかい紙・・・紙・・・

老婆 あ、それとか・・・

ハナノ 硬くない？硬くないですか？(これ(なぐとぶとぶと探す))

老婆 はい、はい。

ハナノ できねば・・・急いでいただけたりや・・・

老婆 あ、はいはい・・・あ、これ！これなんかどうでしょう！

ハナノ

ポケットティッシュを取り出す。最後の一枚。

渡そうとするが、怖くて近づけない。部屋の中ほどにおいて部屋の隅へ。

老婆

ハナノ あ、あの・・・目をうぶっていらっしゃいます？

ハナノ あ、はいっ(目をうぶる)

老婆、その辺にあった段ボールで下半身を隠して紙をゲット。

老婆

ハナノ ああ・・・一枚は・・・どうだろう・・・

老婆

ハナノ あ。すみませんでした。後は自分でなんとかします。・・・じゃ・・・

ハナノ あ・・・どういたしました・・・

老婆、去る。

ハナノ ・・・ヤエちゃん・・・ヤエちゃん・・・

チカマツが戻ってくる。手にはティッシュトスパーの入ったコンビニの袋。

チカマツ

ハナノ えっなにっ？どうかしたの？

チカマツ ー。

チカマツ どうしたの。
ハナノ 今ね、いたんです。出たんです。来たんです。ここに。こーんなんて、こーん
チカマツ なんて、こーんなのが。
ハナノ ええ?・・・それで?
チカマツ 紙が欲しいって。それで、ティッシュをあげたんですけど。
ハナノ ああ・・・その手があったか(トイシの方を気にする)なにかされたわけじゃ
ないわよね、鼻れたりとか、しなかったでしょ。
チカマツ ええ・・・でも・・・すごく怪しい雰囲気でしたよ。
ハナノ いや、もう大丈夫じゃないの?紙あげたんでしょ。きつとどこか行っちゃった
わよ。もう。
チカマツ そつでしょつか・・・
ハナノ うん、大丈夫大丈夫。気にしない。気にしない・・・そんなに気になるんだっ
たら、私、もう一度見てきてあげるから。
チカマツ えー。
ハナノ 大丈夫。何も居ないって。

トイシの方からヤエギリがかけこんでくる。

ヤエギリ ねえねえ、なにかいるよ。
ハナノ え?・・・
ヤエギリ 庭の方からね、裏にまわってみたの、裏の方すいよ。屋根崩れたりしてるし。
チカマツ だからあっちの方には行かないほうがいいって
ヤエギリ そんなでね、トイシがあつてね、引っ張ってもあかないの。無理矢理引っ張って
チカマツ あけようとするよ、なからから「いや〜」って。細かい声で。
ハナノ うわ・・・
チカマツ 嘘。(チカマツに)きこきの・・・変なトイシかね。
チカマツ さあ、私にはなんとも・・・空耳!・・・空耳じゃないの、ほら、怖い怖いと思っ
てると扉のキーッっていう音でも、そう聞こえちゃうのよ。私も子どもの頃よ
く脅かされたなあ。ねえ、知ってる?・・・(思いっきの怖い話をする)あー!!
あなたの後ろに!

と入り口から誰かが入ってくる。
サカタである。

ハナノ・ヤエギリ・チカマツ うわあああああ!..
サカタ (みんなの叫び声に驚いて)うわあああ!・・・なに、なに、なにがどうし
たの?..
ハナノ ああ、すみません、私たち・・・サカタさん、出ますよ。ここ。やめましよう。
サカタ 集るとか。
ハナノ 出るって?..
サカタ 変質者が。
チカマツ 変質者。
サカタ いや、変質者がどうかはなんとも
チカマツ あれ?チカマツさん。
サカタ ども。

ハナノ (ハナノに)チカマツさんも誘ったんだ。
サカタ 偶然会ったのよね。お邪魔?
チカマツ いいえ、ちっとも。手伝ってへねるなすか?うわしいよ。すま。・・・(ヤエギリに
サカタ 目が留まる)
ハナノ あ、あたしのトモダチなんです。ヤエギリさん。手伝ってらおおうと聞いて。

サカタ ああ・・・どうも。サカタです・・・それでっなんなの？
チカマツ ・・・・あ、あたしちよっと。(と奥へ)
ハナノ ダメですよ。危ないです。
サカタ 危ないって、なに。
チカマツ だって、あの、トイレットペーパー。せっかく買ってきたから、トイレしに置いてこうかな・・・とか。

いきなり、女が水の入ったポリタンクを両手にかかえて走って入ってくる。

イワナガ すみません!!遅くなっちゃって!!あの!!あの!!(とトイレしてありますかね!!)

サカタ ああ、あっち?

チカマツ え?でも。

イワナガ ああ、よかったあ!!(と奥へ駆け込む)

チカマツ え?いや、イワナガさん、ちよっと待って・・・(後を追っ)

サカタ ちよっと、それ、出たとかなんだとか、さっきからぜんぜん話が見えないんだけど。

ハナノ とにかく、なにか居るんですよ。

サカタ ああ、やっぱり。

ハナノ やっぱりって、なんですか?

サカタ なんかいりいろ言う人がいるのよ。昔ここに村八分にあった女の人が住んで、その人も首吊りしちゃったんだとか。

ハナノ えー。(ヤエギリと同時に)

ヤエギリ おー。(ハナノと同時に)

サカタ うわさ、うわさ。でっちはあげ。ああ言う事があったから急にそんな事言う人が増え・・・

イワナガ うわー!!

イワナガが走って戻ってくる。

イワナガ なに?なんですか、あれは。

サカタ え?なに。なにかいたの?

イワナガ トイレのドア開けたら、そこ・・・

ハナノ こんなんで、こんなでこんな・・・

イワナガ わかんない。わかんないけど、大きなお尻がどーんって・・・

サカタ ええ?

イワナガ 誰ですか?誰ですか?あれ。

サカタ あ、チカマツさんは?

一同 あ・・・

チカマツが戻ってくる

チカマツ どうしたの?イワナガさん。

イワナガ いや、もう、とにかくびっくりにしちゃって。

チカマツ トイレ、行かなくていいの。

イワナガ え?だって・・・

チカマツ 水、流れないけど、裏庭にポンプで井戸水くみ上げてるのがあるからそれバケツ

ハナノ に汲んで・・・

チカマツ 誰か入ってたんでしょ。トイレして。

ハナノ え?誰かって??

サカタ だってイワナガさんが見たって。
チカマツ (イワナガに) そうなの？
イワナガ え？だって・・・チカマツさん、見ませんでした？
チカマツ 全然。
イワナガ いや、だって、目の前にこんな大きなお尻が・・・
チカマツ なんの事？
イワナガ いや、お尻はお尻ですよ。ここ。ここです。
ハナノ 誰も入っていませんでしたか？
チカマツ うん。誰もはいってなかったよ・・・いやだ、もしかしたらこれって怪奇現象？
ヤエギリ・ハナノ 妖怪オオモモジリとか。
マツカリン・・・？

また、サカタ以外はわいわい騒ぎ始める。

サカタ ストロープ。そこまで(誰も聞いてない)・・・渦潮サンダー!!!

一同。沈黙。

チカマツ なにやってんの？
サカタ あれ、知りませんか？海洋戦隊サブリンレンジャー。七つの海を守る愛と勇気の戦士。マコトが大好きでいつも一緒に見てるんですけど。一度やってみてくださいよね。渦潮サンダー!!!

一同
サカタ ということで、ちょっと情報を整理して話しましょうよ。これじゃ日が暮れちゃう。

チカマツ まあ、まあ、そうですね。
サカタ で？トイレに誰かいたのよね。
イワナガ 大きなお尻。
ハナノ 変質者。

チカマツ だから、誰もいなかったって・・・あー、ここさあ、変な大声がどこからともなく聞こえてきたりもしてたのよねー。やっぱりマツカリンがいるのかもなー、ハナノさん。

ヤエギリ マツカリンの家・・・
チカマツ そうそうそうそう。
サカタ あの、その、マツカリン？ってなに。
ヤエギリ だから、お化け・・・というか妖怪。
サカタ ヨウカイ？お化け？

ハナノ 子どもの頃ね、悪い事するとおばあちゃんに「そんな事するとマツカリン来ますよ〜」って脅かされてて。
サカタ ああ・・・私もよく言われた。そんな悪い子は救急車が来て連れて行っちゃうわよって。

イワナガ 言われましたねえ。
ハナノ 私たちの場合、マツカリンだったんです。
チカマツ マツカランってお酒あったっけか。ウィスキーだかバーボンだか。
ハナノ そう、いつも酒瓶持ってるって噂でした。

サカタ マツカラン・・・マツカリン？じゃあ、梅酒持ったお化けはウメチュとか？
チカマツ サカタさん、いけてない。
イワナガ 私の子どもの頃はちり紙交換に持ってってもらって脅かされてました。
ハナノ それも怖いですよね。
イワナガ トイレットペーパーですよ。やりによって。カラーテレビと交換とかいうのだ

サカタ
イワナガ
「っいたらまだしも。いや、それもどうかないや、悩みましたもん。自分とトイレットペーパー、交換されるならさっさとくっついて。」

チカマツ
サカタ
イワナガ
「サーカスに売り飛ばすってバージョンもあった。時代を感じますね。それには。」

チカマツ
サカタ
ハナノ
「吉田病院に入れるとか。どこ、それ。近所の・・・それ系の病院で。げ、それかなり問題よ。今なら。なんともコメントしがたいですよね、それ。それから・・・モーリさん。」

サカタ
チカマツ
サカタ
チカマツ
「誰ですか、そのモーリさんって。あら、知らないの？モーリさんよ。怖いよー。どう怖いんですか。悪い事するとモーリさんの家の子どもにならなきゃならないのよ。怖いでしょ。モーリさんよ。」

サカタ
イワナガ
サカタ
「いや、よくわかんないんですけど。ムシャノコウジさんとかヨシノザクラさんとかの方が怖いな。いや、それもよくわからないんだけど。」

サカタ
チカマツ
サカタ
「マッカリンのほうか怖いですよ。いや、怖い自慢をしてるわけじゃないんだけど。あまりに怖くてこれ以上はいえない。え、気になるじゃないですか。トラウマだから。」

チカマツ
イワナガ
チカマツ
ハナノ
「すごく貧乏な家だったりとか。貧乏な家イコール恐怖の家じゃないでしょう。でも、生活に余裕がないと子どもは不幸ですよ。お金があってもかまってもらえない家よりはましでしょう。子どもの幸せは様々ですもんね。」

サカタ
イワナガ
チカマツ
ハナノ
「親のあり方に影響されますからね。責任重大ですよね。親が家事一切を放棄して家のなか荒れ放題の家。子どもを一切外にださないで勉強ばかりさせる。きつと親がムチとか持って働かせるのよ。最低。恐るべしモーリさん。」

チカマツ
サカタ
「反面教師ですよね。モーリさん。こともをそんな目にあわせるなんて許せない。最低で片付けちゃモーリさんに失礼ですよ・・・いろいろな事情があるのかもしれないし。どんな事情だろう。」

サカタ
チカマツ
「どっちにしても、地域社会になじまない人の事がそういうお話になっちゃったりするんですよー。」

サカタ
チカマツ
「あれ、サカタさん、物知り。常識ですよー。特に女性にそういうケースが多かったみたいで、未婚の母とかは人目を避けて山の中で子どもを産んで暮らしてて、そのまま山姥にされちゃったり、嫁にもいかず子どもも産まない女は化け物だって噂されて、怪談になっちゃっう。」

チカマツ
「ふっん、常識なんだ。」

ハナノ 怖いすね・・・
チカマツ 気をつけてないと私たちも下手な事したら噂のネタにされて、それで気が付いたら化けものにされてたろして。

イワナガ それで、悪い事したらサカタのおばちゃん来るよ、とか言われるんですか？いやだ、怖いー。

サカタ なんでも私。

ヤエギリ マッカリンは脅しかじゃないです、来るんです。これが、本当に。

ハナノ (信じてない)うそー。

ヤエギリ いえ、本当なんです。

ハナノ 来るんです。窓の外で「うおーっ」とか「ばかーっ」とか、他にも訳のわからない事わめいて、こーんなばさばさの髪で、こーんなすごい形相で。

サカタ 私は怖くて目つぶってたから見たこと無いんですけど。

ハナノ それってただの近所の変なヒトだったんじゃないの。

ヤエギリ わからないですけど、でも、怖かったですよ。

サカタ もう泣いちゃうんです、こわくておしっこもらしちゃうくらい。もう二度と悪い事はしませんって、大反省・・・うちの近所にも欲しいよな、そんな便利なお化け。タイガがあばれたらすぐとんできて脅かしてもらおうのに。

サカタ タイガ

ヤエギリ うん。

チカマツ 虎、飼ってらっしゃるの？

ヤエギリ 息子。暴れん坊なんです。暴れん坊ですごく可愛いのに。

ハナノ リカより一つ下で。

サカタ ああ・・・

ヤエギリ ま、離婚する時旦那にとられちゃったんですけど。

ハナノ ああ。

ヤエギリ (急に様子が変わる)元氣かなー。会いたいなー。

ハナノ ヤエちゃん？・・・大丈夫？

ヤエギリ 会いたいなー・・・

ハナノ ヤエちゃん・・・

ヤエギリ そーなんだよねー。きつとさ、(お供えの近所で上をみあげて)この人もマッカリンに連れてかれたんだよねー。いいなー。もう悩まなくていいんだよねー。ヤエちゃん。

ハナノ タバコ吸ってこよっと。

ヤエギリ、 出て行く。

サカタ

ハナノ 面白いお友達ね・・・

イワナガ すみません。

三人 あー！！

イワナガ どうしたの！？

チカマツ トイレに行きたいのすっかり忘れてたー！！・・・(行くこととするが少しためらう)

イワナガ 大丈夫。私がさっき確かめたから。誰もいないって。

イワナガ (近くにいたハナノに)一緒にいきませんか？行きましようよ。行ってください。

ハナノ え？いや。私は・・・

イワナガ あ・・・もうダメかも。お願いします・・・

ハナノ あ・・・はいはい・・・

イワナガ、ハナノをひっぱるように奥に。
残されたサカタとチカマツ。

チカマツ

・・・結局、なんだったんでしょね？

さあ・・・話が盛り上がってわかんなくなっちゃったねー。

化けてでたのかな・・・(「お供え」の上をながめている)

ええ？

いろいろ心残りもあったでしょうね。私たちに言いたい事もあったかもしれないし。

チカマツさんがそんな事いうなんて、似合わない。

そうですか？そうだ、なんかこの間マコトがご迷惑かけたみたいで。すみませ

ん。

ああ・・・いいのいいの。なんか誰も居ないはずの二階で音がするからね、てっきり泥棒かなにかだと思ってあがってみたら、マー君がいつのまにかあがりこんでて、タクヤの部屋でタクヤのゲームで遊んでたから、ちょっとびっくりしただけ。それだけ。

4人も兄弟がいると、下の子はたくましくなりますよね。お兄ちゃんお姉ちゃんに揉まれて育ってるから。自分がこうしたい、って思うともう一直線で。

いいのいいの。あやうく警察呼びかけたけど、うん。大丈夫。

次はちゃんと声かけてからあがるように言っときましたから。

いいのいいの。マー君、ヤクルト好きなんだね、自分で冷蔵庫開けて5本も飲んじやったから、びっくり。

オレンジジュースとかより健康的でしょ、ヤクルト。毎日兄弟で争奪戦。すこいですよ。

うん、そうだね。ヤクルトそれで最後だったから、タクヤは麦茶飲んでた。

さてと、どこからやろうかな。チカマツさん。雑巾係りとごみ係りとどっちがいいですか。

ああ・・・

ああ・・・ヤエギリさん？彼女。

ああ。

部外者の方に迷惑かけるのはどうかと思うな、私。これって、私たちの間だ

けで・・・

ああ・・・

あちら、少し・・・感受性が強い方みたいだし・・・

悪いヒトじゃなさそうだけ。

ああ、いやね、私はただ、部外者の方に・・・

それって・・・あまり他の人に知られたくないって事？

いや、そうじゃないですけど。

新聞にも載ったし、ワイドショーネタにもなったし、秘密にすることなんか

いんじゃないの。だいたいですみれ組のおかあさん達みんな連れて見学会催そうっていう事自体・・・

見学会じゃなくしてお参りです。

あ、ごめんね。文句つけるつもりじゃないんだけど。

いいんですよ。わかります。チカマツさんの気持ちも。

ああ・・・

チカマツさん・・・あたし、これって、チカマツさんのためにもなると思って

るんですけど。

アプー

え？

いや、気にしないで。

いや、最近チカマツさん、ひきこもりがちみたいだから、楽しいかなって。み

んなで集るの。

チカマツ
サカタ

・・・
ハナノさんだって、何回電話しても、旦那さんが電話に出てね、今体調崩しているから外出できませんって。でも、今年は是非ちびっこ祭りの役員を、と思ってね、で、今回やっと引つ張り出すのに成功。楽しそうでしょ。彼女。

チカマツ
サカタ

ああ・・・まあ。そうかな。
そうそう、私、チカマツさんに渡すものがたくさんあったんですよ。(大量のプリント類を持ち出す)これが今度のバザーの出品のお願いに、お誕生日会のおしらせに・・・(こっちは、そう、夏休みの集いの申込書と(などなど沢山)・・・)

チカマツ
サカタ

(もらった書類の一枚に目を留めて)BWであなたも真っ白・・・?
あ、紛れ込んでました?どうです?BW。ビューティホワイトの略。すごくよく落ちる洗剤。

チカマツ
サカタ

なんかネーミングださくない?
会員制でね、他の人に紹介すると、紹介した人にちょっとしたお小遣いはいるんですよ。イワナガさんも私のサークルの会員なんですけど・・・あ、チカマツさんもやってみませんか?

チカマツ
サカタ

それって・・・マルチじゃないの?
違いますよー。いいものを探求する主婦の集りから生まれたんです。地球に優しいんです。洗剤売るだけじゃないですよ。会員の交流会とかも活発だし、先生の講演も素敵だし。

チカマツ
サカタ

先生?
代表の方がね、私たちの人生をいかにホワイトに保つかって、講演。聞いた後みんなで手をつないで弱い自分を告白しあったりして。私感動して涙出ちゃいました。

チカマツ
サカタ

それって・・・宗教じゃないの?
違いますって。主婦の集いですって。トモダチ作れてお金も儲かったら一石二鳥じゃないですか。
だからそれってマルチな宗教か、宗教なマルチか、どっちかでしょう。

チカマツ
サカタ

一度来て見れば誤解はとけますって。
・・・私は、遠慮しとく。
あ・・・チカマツさんには言っとこうかな・・・(と一枚のカードを出す。診察券である)私、実は。

チカマツ
サカタ

産婦人科?
はい。

チカマツ
サカタ

あれ?おめでた?
はい。

チカマツ
サカタ

5人目。
はい。

チカマツ
サカタ

サカタさんって・・・いくつだったっけ。
27です。最初が19の時。
8年間で5人。
はい。
お腹休む間あんまりなかったんだね。
生むときってすごく痛いでしょ。あの痛さが一種快感になっちゃって。生んだらもう、次生みたいなーとか思っちゃうんですよ。それで、ついつい。

チカマツ
サカタ

ついついついて。
あはは。

チカマツ
サカタ

あんな痛い思い、二度としたくないって思ったけど。私は。
いや。痛いからこそ、あの生んだあとの爽快感が最高なんじゃないですか。私、今じゃお腹の中にいれとかないとなんかすかさすかした感じがして不安になっちゃうんです。私の存在意義みたいな。

チカマツ はあ。
サカタ まあ、お金もかかっちゃうんですけどね。
チカマツ それでマルチ？
サカタ 子どもの世話で、自分の事どころじゃないんですけどね。
チカマツ それで宗教？
サカタ いやだなあ。もうチカマツさん、冗談はっかりー。
チカマツ ・・・で、なんで私にそんな話するの？
サカタ だってえ。お友達になりたいし。
チカマツ ・・・もつ、既にオトモダチでしょ。
サカタ 私たち母親ってある意味孤独じゃないですか。特に専業主婦は年がら年中子どもと顔つき合わせて家庭って山にもって修行してるみたいなものだから、ふうん、サカタさんってそうなんだ。
チカマツ だから助け合って、協力しあってって、必要かなとか思うんですけど。今回の事も（お供えの下に立つ）こういうことが起こって、ヒトに言えないいろんな気持ちを抱えてるヒトもいるかなって。それを聞く耳がきつというだろうなって。チカマツさんだって・・・
チカマツ ああ・・・
サカタ あれ、深い意味とかないですよ。いやだあ、チカマツさん、怖い顔。
チカマツ 本当？普通にしていると、こんな顔なんだよねー。
サカタ あ、そうなんだ。（笑つ）
チカマツ アプー。

チカマツとサカタ、仲良く笑つ。
雷鳴。一瞬ひるむが、笑い続ける二人。
イワナガ・ハナノが戻ってくる。

イワナガ あれ、楽しそう。
チカマツ・サカタ あれ。そう？あはは（笑つ）

雷鳴。

イワナガ 雷。近いですよね。降りますかね。
サカタ 何も居なかった？
イワナガ はい。私ったら何を間違えたんでしょうね。（ハナノに）あのがどういふまじした。助かりました。いや、チカマツさん、用意がいいですね。
チカマツ え？
イワナガ トイレットペーパー、チカマツさんなんですよ。気が利へー。私は、そこまで
チカマツ は思いつきませんでしたー。
イワナガ いや、あれは、まあ、ちよっと・・・
チカマツ サカタさん。持って来ましたよ。うちのストックもそろそろ切れてるんで追加注文しちゃおうかな。（と洗剤のボトルをだす）
チカマツ あ。ヒューティホワイト。
イワナガ そうです。え、これってそんなに知名度上がってるんですか。すごいな。
サカタ イワナガさん、モエノちゃん連れてこなかったんだって？
イワナガ え？
サカタ さっき家に電話したら、うちのがそう言ってたけど。
チカマツ ・・・ 出がけにぐずったから・・・お留守番させてます。
イワナガ 一人で？大丈夫？
サカタ ええ。きちんと言い聞かせてますから。大丈夫ですよ。
チカマツ 偉いのねえ。いいなあ。

イワナガ、大きなウェットティッシュのボトルを出して指をぬぐう。(以下とこのように同じ動作)

イワナガ

そんなことないですよ。要領は悪いし、妙に神経質かと思えば抜けてるしで……見てて本当にいらいらしちゃって、あはは……みんなに(奥、すごいこと)なっていましたよ。あそこまで掃除しようと思ったら2、3日かかるかもしれないですねー。

ハナノ

あそこまでやらなくてもいいんじゃないですか。

サカタ

ああ、そうですね。

イワナガ

私もね、いろいろ考えて用意はしてきましたよ。あ、みなさん、お腹がすいたら言ってくださいね。私、お弁当作ってきましたから。

チカマツ

お弁当？食べるの？(うんうん)？

イワナガ

たいしたものじゃないんですけど。(開じりゅん)？

サカタ

いや。まだ開かなくてもいいし。

イワナガ

予定より2人多いですよね……人数分あるかな。

チカマツ

わざわざ作ってきたんだ。

イワナガ

はい、長丁場になるかもしれないですよ。なんかすごく荒れてるって聞いてたので。

サカタ

いや、とっとと済ませて帰らなくっちゃ、ここ電気もきてないし。

イワナガ

あれ？そうなんですか？掃除機も持ってきましたんですけど、使えないですね。

チカマツ

空き家だから。

ハナノ

暗くなる前に済ませましょうよ。

イワナガ

あ、ろうそくもありますよ。

イワナガ

おもむろに荷物の中からカメラを取り出して「お供え」の上方を撮りはじめる。

チカマツ

ちょっと、何やってんの？

イワナガ

お母さんたちにお知らせのチラシ配るのに使おうかなって。(チラシ)があつたほうがデザインとしてもいいし。

チカマツ

チラシ？

イワナガ

たくさん集ってくれるといいですねえ。

チカマツ

いや、そこまでやらなくても……(サカタを見せ)

サカタ

いや、私の考えじゃないですよ。

イワナガ

私ね、感動したんですよ。サカタさん、私たち専業主婦は山の主だっておっしゃったでしょ。

サカタ

言ったっけ？

イワナガ

まさにそうなんですよ。家庭という山を守るために日々戦ってるわけじゃないですか。同時に私たちがその山の法律であり、守り神であるわけじゃないです

サカタ

か。

サカタ

いや、私はたぶん違う表現を使ったと思うんだけど。

イワナガ

私、救われた思いでした。私たちはひとりのぼっちじゃないんだ。ひとりのぼっちじゃないんだ。

サカタ

あのね、イワナガさん……

イワナガ

彼女は不幸にして戦いやぶれちゃったわけですけど、でも、私たちいい教訓を残してくれたって思うんです。だから彼女の死を悼むという行為はきつ……

チカマツ

私たちの人生をホワイトに美しくする。

イワナガ

その通りです。

サカタ

イワナガさん、喉渇いちゃったな。自動販売機、あったよね、出てすべのことに。

イワナガ

に。

サカタ

に。

イワナガ あ、麦茶冷やしてきましたけど。
サカタ なんかつっきり系のもの、お願いできる？みんなの分も（財布からお札をだしてイワナガに渡す）
チカマツ いいのに、そんな
ハナノ 私、行きますよ。
イワナガ いえ、大丈夫です。まかせてください。じゃ。

勇んで出て行くイワナガ。

サカタ ……私、そんな事言っていないですよ。山の主とか。

チカマツ ああ

サカタ 本当ですって。イワナガさん、ご主人が入院したりとかなんとかで、いまちよ

っと（とちちらかっているポーズ）こんなになってるから。

え？そんなんですか？

ハナノ 入院？なんの病気？

さあ、はっきりは知らないんですけど。前から出たり入ったりなんですって。

ハナノ ……モエノちゃん…大丈夫かな…

サカタ どうかしたの？

ハナノ モエノちゃん、リカとよく遊んでるから…先生から遠まわしに聞かれたん

ですけど…なにか気づいた事はありませんかって…

うん。

サカタ

ハナノ お泊り保育の夜にね、モエノちゃんが、大きな声で「ごめんなさい…ごめ

んなさい…」って寝たまま泣くんですって…

チカマツ ……怪獣の夢でも見たんじゃないの。

ハナノ ええ…まあ、そうかもしれないんですけどね…

なんとなくモエノの頬のあさを思い出すチカマツとハナノ。

短い沈黙。

ハナノの携帯が鳴る。慌てて出るハナノ。

ハナノ はい、もしもし。ああ、ごめんなさい。あの…

サカタとチカマツを気にしつつ玄関の方へ

チカマツ ……旦那さんだ。

サカタ え？どうしてわかるんですか？

チカマツ 着信がオンリーユーだから。

サカタ 謝ってましたよ。

チカマツ まあ、いろいろあるんですよ。

サカタ チカマツさんとおっとなー……さ、始めまじゅうか。本当に日が暮れちゃう。

チカマツ 大丈夫なの？からだ。

サカタ ああ。もつ安定期ですから。体動かすのが怖くて妊娠はできませんよ。（とお腹

をばんばん）

チカマツ あ、そ。まずは玄関からかな。

などと話しながら…二人、玄関の方へ。

誰も居なくなつた部屋。遠い雷鳴。

また琵琶が鳴り始める。

ヤエギリ 決めた。行っちゃおうって……。(縄から首を抜く)あ……
老婆 どうしたの？
ヤエギリ ん……なんか、こんなとこ、きつくて、抜けないの。
老婆 え？大丈夫？あんた
ヤエギリ え、こんなとこが……あれ？あれ？(ほだけない)
老婆 そこ！その結び目をほだけばいいんじゃないの？
ヤエギリ あれれ？(抜けない)
老婆 ちよっとかして(ほどこうとしていららうはじめる)あー、ちよ、ちよっと
待ってて、動かないで……

老婆、慌ててキャリーバッグの中を探る。鍋やらまな板やらの調理用品を散乱させた後に取り出したのは包丁。

老婆 ちよっとじっとしててよ。動かないでよ！
ヤエギリ ねえねえ、タイガ今どこにいるの？幸せにしてる？老婆にいじめられてないかな。

老婆 そんなこと言われても……(切れない)
ヤエギリ 誰も引越し先の住所を覚えてくれないの。でも、マッカリンだったら悪い子の居る場所がわかるでしょ。タイガに会いたい。連れてって……

包丁を口にくわえてむきになって縄をほどこうとする老婆。
そこに入ってくるチカマツ・サカタ・ハナノ。

三人 あ。
ヤエギリ あ。ども。
三人 ども。
ハナノ ……なにやってんのヤエちゃん。
ヤエギリ マッカリンが連れて行ってくれるの。
三人 マッカリン。
ヤエギリ そう。
三人 連れて行ってくれる……？
老婆 ども。(三人の目が自分の持っている包丁に注がれているの気がついて)ああ、これは……

そこに、手にいっぱい缶ジュースを抱えてイワナガが入ってくる。

イワナガ すみません、遅くなっちゃって。誰かが好みか考えてたらつい……(老婆に気がついて)わー！なに！？なんですかなんですかあんた！(手に持った缶ジュースを投げつける。ヤエギリにあたりそうで危ない)
三人 ちよ。ちよっとイワナガさん、イワナガさん、落ち着いてー！
イワナガ これって、あれですよ。あれですよ。
チカマツ 落ち着いてって。
イワナガ 旅人を包丁で切って食べちゃうってあれですよ。
チカマツ いや、私たち旅人じゃないし。
イワナガ だって、まさにあれじゃないですか。
ハナノ あの人、あの人ですよ、さっきの変質者。
老婆 変質者って、なに？私の事？失礼な。
チカマツ 待って。やたら騒いで刺激するのはよくないと思う。
サカタ そう、そうよね、ここは穏便に……
ハナノ (ヤエギリの首の縄が取れる)大丈夫？

サカタ ここは穩便に・・・逃げましょう！

一田散に逃げ出す一同・・・のはずが・・・

ヤエギリ (老婆にからんでいる) ねえ、早く連れてってよー。

老婆 だから、危ないから。ちょっと、誰か、助けて。

ヤエギリ タイガ。もうタイガと離れてるのいやだ。我慢できないよ。

ハナノ ヤエちゃん。

ヤエギリ マッカリンだったら知ってるでしょ。タイガって甘えん坊でわがままで悪い子

だから、だから連れてってよ。タイガのところだ。

老婆 いや、まあ、でかいことなら協力してあげたいけどさ。いかんせん、その...

タイガに会ったらさ、もう一度お腹の中に戻しちゃうの。そしてもう二度と外

に出さないの。ずっとずっと私のお腹の中で一緒なの。

それはちょっと無理なんじゃないの？

老婆 そんなことないもん。

ヤエギリ だって一度出ちゃったものは仕方ないでしょう。もう別物でしょう。

別物とか言わないで。同じだもん。離れられないもん。

うんこだって一度出ちゃったらそれまででしょう。

うんことタイガを一緒にしないで。

ヤエちゃん、興奮しないで。

・・・なんか変なかんじ。

どっちがどっちを襲ってるのかわかんなくなってきましたね。

あれ、どう見てもお友達の方が危害を加えてるんじゃないの。

私にもそう見えます。

老婆 ちょっとあんたたち、この人の知り合い？

ちかマツ あ・・・まあ、そうだけど。

サカタ タイガだかトンガだか知らないけど、連れて行ってやったらうんかすくへん子

どもに会いたがってるみたいよ。

ハナノさん、そこ、遠いの？

新しい住所は私も教えてもらってないし、それに・・・無理じゃないかな・・・

なにか無理。

っていうか、お願いだから連れて行ってやってよ。なんとかしてよ。

老婆

カワザでひきはがそうとするが、老婆の包丁が危なくて上手くないかない。

ハナノ どうしましょう・・・

ちかマツ ・・・・あのねえ、ヤエギリさん。ちょっといい？

ヤエギリ なに。

ちかマツ その人はマッカリンじゃなくて・・・モーリさんよー。

老婆 誰だって？

ちかマツ モーリさん。顔をよく見ればわかるけど、マッカリンよりも間抜けなの。

ヤエギリ あれ、そういわれればそうかも。

ちかマツ だからね、こんなのと一緒にタイガ君の所に行ったらタイガ君この人の家の子

どもになっちゃうわよ。

ヤエギリ えー。

ちかマツ 荒れ放題よ、勉強地獄よ、ム子よ、強制労働よ。

ヤエギリ そんなの嫌だ。

ちかマツ そう。そうでしょ。だからすみやかにその人を解放して

ヤエギリ (老婆に) マッカリンどこ？お化け仲間でしょ。知ってるでしょ。

サカタ ぜんぜんダメじゃないですか。

チカマツ そんなこというならサカタさんなんとかしてよ。
サカタ はい。ここは私にまかせてください。

サカタが一步進み出る。

サカタ わかった、ヤエギリさん。会いに行きましょ。え？

サカタ そのままで会いたいなら、会いにいましょ。ちよっとサカタさん。

サカタ かわいい盛りの子どもの事が忘れられない気持ちってとってもよくわかる。泣ける話じゃない。共感しない母親がいたらそれは鬼よ。蛇よ。そうですよ。

イワナガ どんな母親でも、母親である限り、子どもに会う権利があるはずでしょ。それに我慢はよくない。我慢はっかりしてるから、こうして爆発しちゃうのよ。だから、行きましょ。会いましょ。タイガ君。

ヤエギリ 本当に？

サカタ 本当本当。ね、ハナノさん。

ハナノ いや、サカタさん、ちよっと待ってください。

イワナガ ここにいるみんな、あなたの味方だから。

ヤエギリ ああ。みんなで行けば怖くないですよ。向こうの鬼婆とも戦えますよ。

サカタ あ。そうね、そうね。そうかもね。

ヤエギリ あー。タイガに会えるんだー。夢見てるみたいだなー。
イワナガに抱きつくヤエギリ

ヤエギリ (ハナノに) タイガに会えるんだよ。うれしいよ、うれしいよ。
サカタ いやあ、よかったよかった。後はね、ハナノさんとよくお話をして。
ヤエギリ うん。

サカタ チカマツさん。やりました。

チカマツ ああ……

ハナノ よかった、よかったね……(サカタにちよっといいですか。

サカタ え？なに？

チカマツ どうかしたの？

ハナノ すみません、ちよっと……

ハナノ、サカタとチカマツを連れて玄関の方へ。
ヤエギリは顔を洗うために奥へ。

老婆は立てずにその場でうなっている。

イワナガ 大丈夫……ですか？

老婆 なんかね、ここ(腰)に持病があるんだけど、そこが、じわじわ。じわじわ。

イワナガ ここで何してらっしゃったんですか？

老婆 何してるもかにしてるも、あんたたちの方が後からやってきて、なんだかんだやってんでしょ。あー。殺されるかと思った。

イワナガ ああ……すみません。

老婆 人を勝手に化け物にして。誰がマッカリン？タモリさん？

イワナガ モーリさんです。

老婆 どうでもいいけどさ、あんなのが「お母さんだよー」ってやってきたら、それこそお化けだよ。夜泣きだよ。トラウマだよ。大丈夫なの？

イワナガ でも、気持ちわかりますよ。

老婆　なにがさ。

ウエットティッシュで指をぬぐいはじめるイワナガ

イワナガ　子どもに会いたいって気持ちが高じてああなるのって。なんか自分が半分にな

っちゃったような気分になるんですよ……

老婆　あれ、経験者？

イワナガ　あ……いや……

老婆　訳ありでしょう。なに、あんたも離婚？それとも死んじゃった？

イワナガ　そんなことはないですよ。

老婆　ま、いいけどさ……生きてりゃまだ会える日もいつか来るんだから、じたばたするだけ無駄だと思うけどな。

ハナノ、チカマツ、サカタが戻ってくる。

ハナノ　……ヤエちゃん。

ヤエギリ　ねえ、いつ行く？今からいく？

三人　……

サカタ　（他の二人にせかされて）いやー、すべてにはどうかな。

チカマツ　だってほら、ちょっと落ち着いて考えてみないとね。

ハナノ　ヤエちゃんごめんね。私も教えてもらってないんだ。タイガ君の居場所。

ヤエギリ　うん……

チカマツ　そう、だから、落ち着いて、もう一度冷静に状況を……

ヤエギリ　あ。そうですね、ここマツカリンの家だから、ここで待ってるといつかマツ

カリン帰ってきますよね。そしたらマツカリンにタイガの居場所を探してもらって、みんなでタイガの所に行くんですよ。楽しみだなあ。

ハナノ　待つの？どこで？

ヤエギリ　うん。

チカマツ　待つんだったら、ハナノさんのお家で待ったりとかしない？

ヤエギリ　でも、リカちゃんいい子だからマツカリンは来ないですよ。

三人　（どう言ってもいいかわからない）ああ、ああ、あはは……

老婆　……あの……あたしは、そろそろ……

チカマツ　ああ、そう、そう……ですね、あの、すみませんでした。いろいろご迷惑を

おかけしたみたいで。

ヤエギリ　あれ、モーリさん、行っちゃうの？

チカマツ　モーリさん、忙しいから。それにね、モーリさんはマツカリンとも知り合いじ

ゃないから。なんていうの？縄張りが違うから。

ヤエギリ　そうなんだ。残念。

老婆　そう、そうそう、まあ、なんか情報がいっぱいらしてあげるからね。

チカマツ　子どもいじめちゃだめですよ。

老婆　だめですよー。（冗言しつつこの謝罪）

チカマツ　いえいえ、いいんです。いいんですよ。いろいろ大変なんですなえ、お宅たち

も。んじゃ、私はこの辺で。

チカマツ　じゃ、お気をつけて……

イワナガ　あ。

一同　え？

老婆　あの、お弁当。

イワナガ　お弁当？

チカマツ　せっかく作ってきたから、食べましょうよ。食べてくださいよ。

あ、でも、ここです……

イワナガ 一息いれるんでしょ。ちよつといいじゃないですか。私、なんかお腹すいちゃって。

チカマツ いや、それは・・・

老婆 あらー。ごめんなさいねー。じゃあ、いぢやうになっちゃおうかしらねえ。

イワナガ あ、そうですか？

老婆 うん、なっちゃいたい。すいじ。

ああ。どうぞどうぞ。(嬉々として包みをひろひらへ)

モーリさん、どこか行くんじゃないさ、せつかく作ってきてくれたのに、ねえ。

だって、もったいないじゃないさ、せつかく作ってきてくれたのに、ねえ。

おばけなのにお弁当食べるの？

食べる食べる。お化けもいろいろ大変だね。お腹すくのよこれが。ほら、昔話によく出てくるでしょう。頭のごんごかばーって割れてはそこからばくばく食べるとか。私はそれほごえくくないけどねー。ちゃんと口から食べるけどね。

チカマツ・サカタ・ハナノ・・・

老婆

あらー、おいしそう。豪華じゃないの。ねえ、ほら、みんな、そんなお葬式みたいな顔してないで、腹が減ってはなんとやらっていうでしょ。ほら、来なさい。食べなさいって。ほら、琵琶の音も歌ってる。食べて食べてと歌ってる。いただきます。(食べ始める)

ヤエギリ

あたしも・・・お腹すいたな。食べちゃおうかな。

老婆

そうそう、お腹いっぱいになったらさ、コロコロに余裕もできてさ、難しい事も

ヤエギリ

いだけいぢやあつた。

イワナガ

あれ、手綺麗にしないとダメですよ。おしほりも用意してますから。なんかね

チカマツ

ー、これ、除菌もできちゃうんです。すべねもの。

イワナガ

そついうところ、きちんとしてるんだ。

チカマツ

なんか気持ち悪いじゃないですか。

イワナガ

まあね。うちのが入院してからなんか妙に殺菌とか消毒とか気になっちゃって。

チカマツ

ああ・・・

イワナガ

ええ、まあ。子どもなんかすべに汚い手で食べ物つかんじゃうでしょ。私あれ

がすこ許せなくて、それで・・・ほい。どつぞどつぞ。

張り切って皿や箸を配りまぐるイワナガ。仕方なく弁当の周りに集る一同。

一同・・・いただきます。

ヤエギリ

あ、おいしい。

老婆

うまいうまい。

イワナガ

どうですか？急いで作ったんで味とかあまりみてないんですけど。

チカマツ

ああ、おいしい、おいしい。ねえ。

ハナノ

はい・・・

サカタ

イワナガさん、料理上手ね。

チカマツ

よかったですー。

イワナガ

・・・なんか、変な絵だね、わたしたち。

イワナガ

お花見みたいじゃないですか。

チカマツ

お花見だったって、肝心の花がね。

イワナガ

そつですよね。お花がないと盛り上がりませんよね

チカマツ

いや。盛り上がる必要はないんだけど。

イワナガ

・・・あ。

イワナガ、チカマツが供えた花束をヤエギリが結んだロープにぶらさげてる。それを見上げる一同。

イワナガ 花見です。

チカマツ・ハナノ・サカタ ……うん

老婆 おお、なんかアートだね。

イワナガ そうですかあ。よかったあ。

神妙に弁当をつつくチカマツ・ハナノ・サカタ。
対照的に嬉々としているヤエギリ・イワナガ・老婆。

ヤエギリ 早くマツカリン帰ってこないかなー。

イワナガ ……あれ、ヤエギリさん、カリフラワー嫌いですか？

ヤエギリ うん。

イワナガ 好き嫌いダメですよ。

ヤエギリ カリフラワーってき。脳みそに似てるよね。

チカマツ ああ、そういわれてみればそうかも。

ヤエギリ 脳みそ沢山食べたら私も少しは頭よくなるかな…あたしってさ、こう、こ

こ(頭)のネジがぴーんって取れやすい人なんだって。お医者さんが言ってた。そういうとこれ(ウインナー?)なんか指ですよ。

イワナガ ああ、そうかも。

ヤエギリ サイズ的には子どもの指だね。

老婆 ちよっと止めてよ、気味悪い。

ヤエギリ でも、おいしい。子どもの指。

イワナガ じゃ、私は脳みそを。

ヤエギリ ねえ、マツカリンを呼ぶ呪文ってないのかな。

ハナノ さあ、知らない。

チカマツ あったらいいのになあ。ああ、なんか待ちきれなくなりそう。

イワナガ ……あの、イワナガさん。

チカマツ はい。

イワナガ 旦那さん、入院って…大丈夫なの？

チカマツ ダメです。

イワナガ え？

チカマツ もっ、ダメですねー。

サカタ またまた。

イワナガ いえ、本当に。あと1ヶ月持ったらいい方らしいです。

ハナノ ……ああ…

イワナガ なんですか？

チカマツ いや、あんまりあっさり言うから。

イワナガ いまさらくよくよしたってしょうが無いですから。うじうじ悲しむのは止めて

老婆 ます。

偉い！偉いよ、あんた。そうそう、人間いつか必ず死ぬんだからさ、じたばた

しても仕方ない。仕方ない。

イワナガ それが、面白くて。

チカマツ はあ。

イワナガ 最近変な事言うようになったんですよ。今死ぬのは本当にココロ残りだって。

だからできることならもう一度生まれ変わりたいって。

老婆 ぶっん。

イワナガ ただ、生まれ変わってもまた私たちと家族になれるかどうか不安だから、死ん

だら魂になって私のお腹に戻ってきて、私の子どもとして生まれたいとか言う

チカマツ
イワナガ
老婆

んですよ。それでまた家族になって暮らすんだって。そっじゃないと死にきれないとか言って泣くんですよ。笑っちゃいますよね。
ああ・・・
まあ、できることならそうしてあげたいんですけどね・・・
死ぬ前の病人はいろんな事いうからね。うちの人が死ぬ前もいろんなふざけた事言ってたっけか。
お化けにも家族あるんだ。

ヤエギリ
老婆

今はもうないけどね。

生まれ変わるか・・・できたらいいなあ・・・
無理ですよ。

まあね。

大人は。

え？
だから、大人は無理らしいですね。

だから、え？

大人って、もうすでに、ほら、魂にいろんな不純物がこびりついてるじゃないですか。だからダメなんですよって。

だから、ダメって、なにが？

生まれ変わり。

いや。大人だろうが子どもだろうが無理でしょう。そんなもん。

子どもはOKですよ。

OKって、なに。

先生がね、そうおっしゃってました。

先生・・・ビューティホワイト。

ピンゴ。

はあ。
いや、私知らないですよ・・・そんなこと言ってたっけ。

特別セミナーで。

あれ、行ったの？すごく高いでしょ。受講料。

あたしですね、ずっと子どもできなくて、お互いの両親にやいのやいの言われて、不妊治療っていうんですか？いろいろやったんですけど。

・・・民間療法とかもやったし・・・そりゃもういろいろなことやったんです。

ざくろシユースを低温期に飲むと内膜が厚くなるからいいとか。

イカは女性ホルモンの分泌を促進するからいいとか、亜鉛がいいから牡蠣を食

えとか、飛騨高山のさるぼぼ買って持っておくといいいとか。

さるぼぼってなんですか。

なんかこうつるんってした赤い小さなお人形。顔がないの。

あ、それ、見たことあるかも。

今はキティちゃんさるぼぼとかもある・・・らしい。子育てが授かるお守り。

チカマツさん、よくご存知ですね。

私のトモダチの・・・トモダチがやってたから。そんで？

そのきわめつけは胎盤。

胎盤。

飲めば女性ホルモンも調整できるって、向こうのお母さんが、産婦人科から帝王切開で生んだ赤ちゃんの胎盤をもらってきて。焦がさないように低い温度で

がりがりになるまで焼いて、すり鉢ですって粉にして、オブラートで包んで飲

むんです。

なんか・・・すーい。

餃子の具と混ぜて食べたりのもしたかな。

はあ・・・

ヤエギリ
イワナガ
サカタ

ハナノ
それで妊娠して、モエノちゃん？

イワナガ
それが効いたせいかどうかかわかんないですけど。でもね、先生の話をきいて私

チカマツ
一番にそれを思い出したんです。あ、これも生まれ変わりのためって。

イワナガ
いや、違うでしょう。生まれ変わりのためってのは死んだ人が新しい人として生まれ

チカマツ
るってことで、胎盤くれた赤ちゃんはどこかで生きてるわけだから。

イワナガ
あ、そうか。そうそう。

チカマツ
でもね、私、感動したんですよ。先生が話してくださったんですけどね、なん

イワナガ
か南の方の小さな国でね、子どもが不慮の事故とかで死ぬでしょ。

チカマツ
うん。そしたら、その子どもを近所の人みんなで料理して食べちゃうんですって。

イワナガ
それを食べる事ができるのは女の人だけなんです。結婚している女の人だけ。

チカマツ
うん。それで、その儀式の後に最初に生まれた赤ちゃんにその子の名前をつけて育て

イワナガ
るんですって。その子が生まれ変わったって考えるんです。素敵な習慣でしょ

チカマツ
う。いいなあ。

ヤエギリ
それは、どうだろう・・・

老妻
自分子どもがみんなの血となり肉となり、そして新しい命になって生き続け

イワナガ
るんですよ。いいなあ。

チカマツ
イワナガさん、そういう話はもう・・・(ヤエギリを見る)

ヤエギリ
あ、すみません。

チカマツ
あー、これおいしい。

イワナガ
ああ。ありがとうございます。

チカマツ
あれ？これ？

イワナガ
これ、食べてみてよ。すっごくおいしい。なんの肉？鶏じゃないよね・・・豚

チカマツ
でもないし・・・

イワナガ
子どものお尻の肉です。

チカマツ
イワナガさん、ちょっと趣味悪い。

イワナガ
・・・すみません。

チカマツ
いや、まあ、その・・・

イワナガ
私っていつもついついやりすぎちゃうんですよね。それで、ふと我にかえて、

チカマツ
猛烈に後悔しちゃうんです。

イワナガ
いや。まあ、それが個性といえれば個性だから。

チカマツ
サカタさん、やさしい。

老妻
これ、おいしいって、食べてみよ。

一同、その料理をつまみ、食べる。

イワナガ
ああ、なんか、儀式っぽいですよね。これ、既に。

雷鳴。

イワナガ
あのう・・・食事中にとってもお行儀悪いんですけど・・・

チカマツ
どうかした？

イワナガ
あのう・・・どなたかトイシ、行きたくありません？

サカタ
まだ怖いのか？

イワナガ
サカタ
チカマツ
ヤエギリ
チカマツ
イワナガ
ヤエギリ
もう。ほんと、どっつしてこんなに気が小さいんでしょっねえ。
もう・・・(立ち上がりかける)
ヤエギリさん。ヤエギリさん、行ってあげてくれねえ。
ああ。いいよ。
ごめんねー。
ありがとうございますー。
探検探検。マッカリン帰ってきてるかもしれないしねー。

二人。トイレの方へ。
緊張がどつとどけるチカマツ・サカタ・ハナノ

チカマツ
ハナノ
チカマツ
サカタ
チカマツ
サカタ
チカマツ
チカマツ
ああ。もう。
どうしますっどっつしましょう。チカマツさん。
どっつしましょうって・・・サカタさんが安請け合いますから。

サカタ
チカマツ
アプー
私に言われても・・・
いや、チカマツさんだったら年の功でなんとかしてくださるかなって
アプー
なんの話？
ああ・・・

老婆
チカマツ
チカマツ
ハナノ
ハナノ
ハナノ
ハナノ
ハナノ
ハナノ
人をごここまで巻き込んでいてその態度はないでしょう。なになに。おばちゃん
に話してっらんない。
ちよっと、へビーな大好きよ。どんと来て。

老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
ハナノ
ハナノ
あー、まー、そんな感じだね。
その時に親権の事でもめて。
よくあることよね。

老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
ハナノ
ハナノ
ヤエちゃんはタイガ君を引き取りたかったですけど、ちよっと・・・病気を
してっ。
経済力がなかった。
それもそうなんですけど・・・病気がっつうのが、口口口の病気で

老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
ハナノ
ハナノ
はあ。
ヤエちゃん、タイガ君と離れたくなくて。
んー。わかるわかる。

老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
老婆
ハナノ
ハナノ
ハナノ
・・・離れたくないって言って・・・タイガ君の首を・・・(こっ)締める真似
ああ、心中っ切ないねー。
心中だったらまだよかったですけど・・・ヤエちゃんには死ぬ気はなかった
んです。

老婆
チカマツ
ハナノ
老婆
チカマツ
ハナノ
老婆
チカマツ
えっそれじゃ心中じゃないじゃな。
そうなのよ。

老婆
チカマツ
ハナノ
サカタ
お腹の中にもどすためには、まずはおとなしくなせよかなっつてきえだっし
くっ。
ありゃ、さっきの、本気で考えてたの。
かなり本気だったみたい。
今は落ち着いてたんですよ。薬飲んで通院さえしていれば普通の生活ができる
よっつになっつたのに・・・
わたしっ？わたしのせいっ？

ハナノの電話がなる。

ハナノ
サカタ
チカマツ
老婆

サカタ

老婆

サカタ

老婆

チカマツ

老婆

チカマツ

サカタ

老婆

チカマツ

老婆

サカタ

老婆

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

サカタ

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

サカタ

チカマツ

老婆

あ・・・すみません。(玄関の方へ)
もっ、いいわよね。ラブラブってかんじで。
サカタさん。それもう死語。
お腹のなかにねえ。

なんかね、警察沙汰も一度や二度じゃなかったみたいで、それで裁判所が中
はいつてどうとう引き離されたって。

で。どうすんの。すっかり行く気になってるよ、あの人。

あれじゃ行った先でまたなにかやらかしかねませんね。

危険だね。

うん・・・

あ、それと、もう一人の方もなんか危ないんじゃない。生まれかわりとか儀式
なんとか言っちゃってさ。

ああ・・・BW・・・

私のせいじゃないですよ。

だれか、死んだか、いなくなったかしたの？あの人とこの子どもも。

イワナガさん？一人っ子。うちと同じ。

じゃ、その子がどうかしたの？

・・・してないと思いますけど。

いや。なんか、そんな感じがしたからさ。

いやだ、大丈夫ですよ・・・たぶん。止めてくださいよ。変な想像するじゃな
いですか。(重箱の方を二つそり見る)

・・・あわせてあげたい気もしてきましたな・・・

え？

ヤエギリさん。

はあ？

外国に引っ越しちゃったわけじゃないんだから、見つけるのは簡単だと思うん
だけ。

何言ってるんですか、チカマツさん。

サカタさん「どんな母親でも、母親である限り、子どもに会う権利があるー」
とか力んでたじゃない。

あれは、なんていうか、方便というか・・・だって、危険ですって。下手する
とヒトコロシの手伝いする事になっちゃいますって。

それって、ヒトコロシかな。

立派なヒトコロシですよ。一番許せない犯罪ですよ。

そうかな。

そうです。心中ならまだしも。ダメですよ。そんなの。

え、子どもを殺した母親は生き残っちゃいけないの。死ななきゃならないの。

普通の神経だったら自分も後を追って死にたくりますよ。

普通ってなに。

普通は普通ですよ。

普通の母親ってどんなの。

それは、子どもの事を第一に考えて、子どもの為に
もうちどお腹の中にもどして仕切り直しをしようっていう発想は子どものた
めじゃないの。

屁理屈こねないでくださいよ。チカマツさんはわかりませんが、私はそつい
うの、認められませんか。理解できませんから。かわるのもしやですよ。

あ、そう。

首に縄つけて力づくでひっぱって連れて帰ったら？みんなでやったら細い女の
子一人くらいなんとかなるでしょ。後は医者でも弁護士でもなんでも呼んでな

チカマツ・サカタ いや、それはなんか・・・

チカマツ めずらしい。

チカマツ なんですか。

チカマツ 意見が合ったから。

老婆 面倒くさいねえ、あんたたちは。仲いいの、悪いの。

サカタ オトモタチですよ。ねえ。

チカマツ うん。

「ここはやっぱりハナノさんにちゃんと言わなくていいんじゃないかな、赤の他人の私たちの言葉よりも理解してもらいたいよ。」

チカマツ 「・・・でもなきゃマッカリンか。」

サカタ チカマツさんー！！

チカマツ いや、言ってみただけ。

サカタ ナイス。それナイスよ。マッカリン。マッカリンね。

チカマツ 「・・・なんかいやな予感するんだけど。」

サカタ 「ここはひとつマッカリンに一肌脱いでもらいましょうよ。」

老婆 「なに？なに、その目は？」

サカタ あの、すみません、ぶしつけなお願いだとは思ってますが、断る。

サカタ 聞いてもないのにそんなきつぽり。

老婆 いくらあたしでも、容易に想像できる展開だからね。

「だったら話が早い。私たちを助けると思って。難しい事言わなくていいですから。」「はかー」
「とか叫ぶくらいと怖い顔して」「早くおうちにかえらなきゃだめー、子どものことは追って通知するから待ってー」とか脅かすだけでいいですから。」

チカマツ いや、合格発表じゃないんだから。

サカタ だめですか？

チカマツ かなりの無理がない？それって。

老婆 あたし、モーリさんなんですよ。マッカリンより間抜け顔の。

サカタ じゃあ、それでもいいですから、とにかく脅かしてくださいよ。

チカマツ あまりに子どもだまじだって。サカタさん、この間の親子の集いの寸劇の脚本で失敗してるでしょ。大体発想が体育会系だから。

老婆 あだし学芸会でも切り株の役とかしかしたことないんだけど。

ハナノが戻ってくる。

ハナノ あの・・・

チカマツ どうかしたの？

ハナノ あの・・・あたし、これで失礼しなくちゃ。

サカタ ええ？ちょっと待ってよ。

チカマツ 電話、旦那さんよね。お家、なにかあったの？

ハナノ いえ、ただ、ちょっと・・・

サカタ ちよっととか困る。今からハナノさんにも協力してもらって・・・

チカマツ ヤエギリさん、ぶじするの？

ハナノ ああ・・・でも、早く帰らないと。

チカマツ でもすぐに腰をあげそうじゃないよ、彼女。

ハナノ 早く帰らないと・・・ダメなんです。

サカタ 置いて帰られても困るんだけど。

チカマツ 本当になんでもないの？大丈夫？

ヤエギリとイワナガが楽しそうに談笑しながら戻ってくる。

イワナガ

いやだ、もう、ヤエギリさん、面白すぎ。

ハナノ

ヤエちゃん。

ヤエギリ

マツカリンまだ帰ってこない？

ハナノ

ヤエちゃんごめん。あたし、帰らなすぎや。

ヤエギリ

え？どうして？

ハナノ

・・・帰らなすぎやならないの。

ヤエギリ

お家に？

ハナノ

うん。

ヤエギリ

帰るの？

ハナノ

うん。だから、一緒に帰ろ。

ヤエギリ

タイガのそこには？

ハナノ

帰らないと。お願い。

ヤエギリ

タイガは？

ハナノ

ヤエちゃん帰らないなら、私だけ先に・・・

ヤエギリ

一人で帰れるの？そんな勇氣あるの？

ハナノ

だって・・・

チカマツ

ヤエギリさん、ハナノさんにもいろいろと事情があるみたいだから、ここは・・・

ヤエギリ

(チカマツに)この人家に帰っちゃダメなんです。

チカマツ

そりゃ、一緒にタイガ君に会いに行くとは約束したけど、でもね・・・

ヤエギリ

電話で怒鳴られたんですよ。何処の男と会ってるんだ、早く帰ってこないと殺

一同

すとか言われたんですよ。

ハナノ

やだなあ、ヤエちゃん、変な事いうと、みんなが心配するじゃない・・・(みんなに)ヤエちゃん、夢みたいな事ばかり言って・・・薬のせいですかね・・・

ヤエギリ

あたし、変になんかになってない。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ハナノ

変よ。ヤエちゃん、変。

ヤエギリ

じゃあどうして変な私を呼んだの？自分より不幸せな人をそばにおいとけば、

ハナノ

少しは気持ちが救われるって思ったの？あたしが入院した時いろいろ心配して

ハナノ

くれたから今度あたしが力になろうって思ったのは余計なお世話なの？

ハナノ

しーっ。

ハナノ

しーっ。

ハナノ

二人の声が低くなり、そしてまた聞こえはじめ。

ハナノ

だから、一緒にいてくれるだけでいいの、ほら、ヤエちゃんタイが君と離れて

ハナノ

さびしそうだったでしょ、だから・・・リカのこと、自分の子どもだって思っ

ハナノ

て・・・

ヤエギリ

あたしは頭が変だから都合がいいよね。外でなに言っても夢物語で済んじゃう

ハナノ

もんね。

ヤエギリ

ヤエちゃん、時間がないの。お家帰ってゆっくり話そう。

ハナノ

ほこほこにさねに帰るんだ。

ハナノ

だからここでそんな話しないで。

ヤエギリ

そんでまだしばらく外にだしてもうえないんだ。

ハナノ

ヤエちゃん、やめて。

ヤエギリ

うそつき。見栄っ張り。

ヤエギリ

うそつき。見栄っ張り。

ハナノ
ヤエギリ

頭のネジのトンじゃった変なヤエちゃんにそんなこと言われたくない！
あたしも、殴られっぱなしでいつもめそめそしてるあなたに怒鳴られたらむかつくー！

ハナノ

自分の子どもに火つけたり水に沈めたり正露丸一瓶飲ませるようなヤエちゃん

ヤエギリ

にえらそうにして欲しくないー！！(出てくる)

(後を追って出てくる)旦那にもそんな風に怒ればいいじゃん。なんででまきないの。

ハナノ

もついい、あたし、帰る。

ヤエギリ

あたしは絶対タイガに会うー！

ヤエギリ、黙って部屋の隅に座り込む。ハナノも帰る勇気がもてない。

老婆をモーリさん化させようとするサカタ。

老婆

あ……みんなにせかされて、へなちょこに威嚇(ばか)ー。ケンカしちゃだめ

ヤエギリ

……

老婆

モーリさんは怒ってるんだぞー。お家に帰らなきゃだめー。

ヤエギリ

……

老婆

……ね、もつ今日はお開きしたららっみなさん暖かいおうちにお帰りなさい。

ハナノ

ヤエちゃん、お願い。

ヤエギリ

いやだ。

チカマツ

ハナノさん、いいよ、ここは。ハナノさんは帰った方がよくない？

サカタ

チカマツさん、だって……

あたしたち、事情はよくわかってないから。ほんと、なにも聞こえなかったから。だからハナノさんが帰らなきゃって思うんだたら……帰ればいいと思う。

ハナノ

はい……

ヤエギリ

一人で帰るのが怖いんだよ。

老婆

……あなた、そんな意地悪してないでさ、一緒に帰ってやりゃいいじゃん。

ヤエギリ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……あなた、いい加減にしなさいよ、大人気ない。

ヤエギリ

……

老婆

……

チカマツ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……

ヤエギリ

……

老婆

……

チカマツ

……

老婆

……

チカマツ

……

ろで・・・

老婆 そんな小綺麗な格好して、屋根のある家にのうのと暮らして、なにが不満なの。なにじだはだしてんの。子ども？暴力？そんなのシントウメッキヤクすればなんともなるの。

チカマツ

老婆

んー、それはちょっと乱暴な言い方かな・・・

サカタ

一人で生きられない人間はとっとと死になさい！

イワナガ

モーリさん、それはちょっと・・・

老婆

そうですね、いくらモーリさんでも聞き捨てなりませんよ、そんな。

チカマツ

あ、モーリさん所詮お化けだから、人間の心理を理解しろといっても・・・(老婆にこっそり謝罪)

老婆

(何故かドラえもんの真似) 僕おばけだからわかんない。わかんない、ぜーんぜん。

イワナガ

ヤエギリさん、なにが言ってるよ。子どもと離れなくちゃならなくなったら、そりゃ母親はとっちらかりますよね、じだはだしますよね。

チカマツ

うんうん、まあ、そつだよね・・・

イワナガ

ここで声を大にしないと、理解してもらえないと、母親は孤独になるんですよ。

先生がおっしゃってました。さびしい親猫はパニックになって子猫を食べちゃうんですよ。さびしいから食べちゃうんですよ。

サカタ

イワナガさん、大丈夫？

イワナガ

私？私は大丈夫ですよ。

チカマツ

いや、あまり大丈夫そうじゃないんだけど。

イワナガ

大丈夫ですよ。なんでもありません。

サカタ

・・・モエノちゃん、モエノちゃん、どうかした？

イワナガ

どうもしませんよ。

サカタ

離れるとか、さびしいとか、やたらむきになってない？

イワナガ

なんでもないですよ。

チカマツ

ならいいの、いいんだけど。

サカタ

先生が、先生がそうおっしゃってただけです。

イワナガ

うん、わかったから。だから・・・

チカマツ

今は私の事なんかどうでもいいじゃないですか。

イワナガ

だからいいんだって。

サカタ

え、サカタさんだってわかりますよね。

イワナガ

わたし？

サカタ

はい。

イワナガ

なんで私。

サカタ

さみしい気持ち、同じ母親としてすくくみくわかりますよね、サカタさん。

イワナガ

だからなんで私。

サカタ

ここでモーリさんに一発がつんと言ってくださいよ。サカタさん。

イワナガ

なんのことだかさっぱり。

サカタ

サカタさんとかね、何回流産した事か。そのたびにがんばって妊娠して、幸せな家庭生活を持続させてきたんですよ。

イワナガ

いやそれはアしだから。

サカタ

痛いんです。つらいんです。体だけじゃないですよ、ここ(胸)もです、ここ

イワナガ

も。

サカタ

私そんな事言っていないから。

イワナガ

でもね、サカタさん、負けてないんですよ。すごいんです。

サカタ

(つぶやくように) 格好悪いな・・・こんなの

イワナガ

サカタさん、私ね、ヒューティホワイトの集いでサカタさんの告白聞いてすごく感動したんですよ。泣けました。言葉で表現できないほどの喪失感を埋める

イワナガ

るで・・・

サカタ ために努力しているサカタさん、偉いです。尊敬しま・・・
イワナガさん、それ、反則。
サカタ だってサカタさん・・・
うるさい！！

沈黙。

サカタ、イワナガのほうに歩み寄る。こぶしが握られている。
緊張する一同。

サカタ 渦巻きサンダー！！

いきなり、くるとヤエギリの方に向き直るサカタ

サカタ あなた、ヤエギリさん。
ヤエギリ はい。
サカタ

（勢いよく）あなた、いつまでもとられた子どもにこだわってないで、次の子ども産みなさい。どんだん産みなさい。野球チームでできるくらい産みなさい。そうしたらさみしくないから。寂しい事なんかないから。あたしだって寂しくないもん。いくら何回も流産したって、私は腐った種とかじゃないから。腐ってるとか誰にもいわせないくらい、いくらだって産んでやるんだから。将来オーケストラ作るんだから。おばあちゃんになっても産み続けるんだから。子沢山でギネスにのってテレビの大家族スペシャルに出演してやるんだから！

サカタ、さっきイワナガが買ってきた飲み物を拾い、缶を開け、飲む。ごくごく、飲む。そしてまた出て行く。

ヤエギリ・・・マッカリンだ。

ハナノ え？

ヤエギリ 今の人、マッカリンだ

一同 ああ・・・

ヤエギリ・・・マッカリンに怒られちゃった。

ハナノ ヤエちゃん・・・

ヤエギリ（その場にしゃがみこむ）仕方ないなあ・・・マッカリンの言う事はきかなきゃね・・・

イワナガ 私、そんなつもりじゃなかったんです。だって、恥ずかしい事じゃないじゃないですか。先生もそうおっしゃってました。だから私・・・
わかっている。わかっているから。

悪気とかなかったんですよ、私本当に感動して・・・

うん。大丈夫。大丈夫。

ハナノの携帯が鳴る。

ハナノ、ためらうが、出ようとしていない。

それを見つめている一同。
携帯を見つめているハナノ。

ややあつて、沈黙する携帯。

チカマツ いいのっ出なへて。

ハナノ はい・・・もう、出ても出なへても、多分同じですから。

チカマツ ああ・・・

ヤエギリ ごめん。

チカマツ 邪魔するやつには「はかー」っとか威嚇して。
ヤエギリ マックリンの軍団。
チカマツ どちらになつて、髪振の乱して、それでも前に進んで。
ハナノ はい。

チカマツ それで、タイガ君のことさらつてね、山に戻るの。
ヤエギリ うん。

チカマツ 山に戻つたらね、汚れた服も髪もビューティホワイトであらつてね。
イワナガ はい。

チカマツ 綺麗になるの。すいへ綺麗になるの。髪なんか真っ白で。

ハナノ ああ……

チカマツ そつしたら、きつともう誰も私たちの事をいじめたりしないう……汚れたのもしない。
ハナノ 伝説になる。

チカマツ きつと誰かと言つようになるよ。「悪い事をしたらサカタのおぼっちゃまさんよ。
ハナノ ハナノのおぼっちゃまさんよ、イワナガのおぼっちゃまさんよ、ヤエギリのおぼち

ハナノ ちゃんよ……チカマツのおぼちゃんよ」って。
チカマツ それを聞いた子どもはきつ悪い事なんかしないんですよね。

チカマツ 強いよ。怖いよ。
ヤエギリ 最強ですよね。

ハナノ 負けませんよね。

老婆 あの、あんたたち……

チカマツ なーんちゃつて。

イワナガ なんちゃつて。

ヤエギリ なんちゃつて。

ハナノ なんちゃつて。

チカマツ そんな事ができたらいいよねー。

イワナガ そつですよね。

ハナノ ほんとに。

ヤエギリ うん。

イワナガ ……できたらいいですよね。

ヤエギリ ……そつだよね。

チカマツ ……ほんとに。

ハナノ ……はい。

沈黙

イワナガ ……片付けましょつか……
チカマツ そつだね、今日はもうお開きだね。
イワナガ 掃除、あんまり進みませんでしたね。
チカマツ 本当。

サカタが慌てた様子で足早に戻つてくる。

サカタ ハナノさん！ハナノさん！！

イワナガ サカタさん……わたし……

サカタ いや、それはいいの、もう忘れた。

イワナガ ……

サカタ それ以上言つと殴るよ。お母さんの鉄拳は世界一痛いつてマロロのお墨付まだ

チカマツ ……それよりも、ハナノさん。
どうしたの？

イワナガから重箱を受け取るヤエギリ、それはまるで骨董のはいった箱のよう……

イワナガ ゆっくり、食べべてくださいね。

ヤエギリ うん。しっかり、噛んで。タイガにもそうしなさいっていつも言っていました。

イワナガ いいことです。

ヤエギリ その方が栄養になるんですよね。

イワナガ 血となり肉となる。

ヤエギリ はい。

イワナガ じゃ。

ヤエギリ じゃ、行くね。バイバイ。

イワナガ バイバイ。(出て行く)

イワナガ ……じゃ、私も。そろそろ病院に行く時間かな。

イワナガ ご主人。はい、さあ、今日はどんなおかしな事言って笑わせてくれるかな。楽しみだな。

イワナガ持ってきた荷物やごみをいっぺんにかかえようとする

チカマツ 水、私が(バケツの水を捨てるため奥へ)

老婆 (じたばたしているイワナガを見かねて) ああ、手伝うから、これとこれ？

イワナガ すみません、玄関までいいですから。

老婆 重たいねこりゃ。あ、腰が腰が……

などとにかくやかにイワナガと老婆、玄関の方に荷物を。

誰もいない部屋の中に琵琶の音が響く。

ハナノが奥からこっそり入ってくる。

老婆の包丁を見つけ、バッグの中に入れる。

チカマツが出てくる。

チカマツ あれ、忘れ物？

ハナノ あ……はい。(玄関のほうへ)

チカマツ あ、ハナノさん……

ハナノ はい。

チカマツ がんばってね……っていうのは言葉が変か。

ハナノ いえ、がんばります。

チカマツ うん。

ハナノと入れ違いに老婆が出てくる。

そのまま出て行くハナノ。

老婆 あれ、どこから戻ってきたの？

チカマツ ……裏庭の方からかな……

老婆 なんでもまだ。

チカマツ さあ……

老婆 みんな、行っちゃったね。

チカマツ うん。

老婆 一週間後？集めるの？本当に。

チカマツ 集るよ。

老婆 みんな、行っちゃったね。

チカマツ さとと、私も帰ろうかな。

老婆 ああ、お疲れ様……またね。

チカマツ
老婆

・・・うん。
今度はさあ、日本酒でも下げてきてよ。じっくり聞いてあげるからさ、コクハク。

チカマツ
老婆

覚えてたんだ。
当たり前でしょう。おばちゃんはね、義理堅い事ではこの業界一なんだよ。帰ってこない旦那に似てきた子ども見ると脳みそに鳥肌だかなんだかたがた居ても立ってもいらなくなつて絞め殺したくなるってことあたりだったっけか？

チカマツ

そこまで言つてないよ。
あれ、そうだったけ。
・・・私は大丈夫。
いや、まあ、とにかく、とことん聞いてあげるからさ、だから、あ、つまみは賢沢いわないから。剣先するめとかチータラとかそんなんでいいから。

チカマツ

コンビーフとかジャーキーとかでもいいよ。いいよ、ぜんぜんいい。

チカマツ

はいはい。
ああ・・・一週間後？集めるの？本当に。

チカマツ

お弁当とか出るの？だったらあたしも来ちゃおうかな。
いや、お参りだから。あくまでも。

チカマツ

みんな、来るかねえ・・・
なに

チカマツ

こういう業界にいるとね、
ホームレスって業界なんだ。

チカマツ

とにかく、もう二度と会えない人ってほんとにびーんと来るのよ。この人は冬を越せないだろうなああって思つてるとどっかで凍死したりするし、こいつ影薄いなーとか思つてるるといつのまにかその辺の川に浮かんでたり、酔っ払つて車の下敷きになつてたり。

チカマツ

過酷だね。
当たり前じゃないさ。生所も知らず宿も無し、ただ雲水を便りにて、至らぬ山の奥も無し。ま、あんたたちみたいにぬくぬく暮らしてる人にはわかんないだろうけどね。

チカマツ

集るよ。サカタさんも、イワナガさんも、ハナノさんも、ヤエギリさんと一緒に来るよ・・・絶対、来る。

老婆

ああ、そうかねえ・・・

チカマツ

（お供えの上を示して）この人も戻ってくるかもしれない。

老婆

そりゃ絶対見に来なくっちゃね。
・・・じゃ、さよなら。

チカマツ

あ、そこまでお見送りを。
いいよ、そんな。

チカマツ

あ。
いいのいいの。いろいろ食べ物ももらったしき。今日は出血大サービス・・・
どうかしたの？

老婆

いや、あの・・・

チカマツ

なにになに？

老婆

また、お腹が・・・
はい、いいから、行って行って、ちゃんとトイレットペーパーもあるから今度は。

チカマツ

いや、だって、・・・うー
行ってってば。

老婆 あたしの人生ってねーいつも、こつなのよね、肝心なところまで……あ……
チカマツ いいからいいから。

老婆 ごめんねー。
チカマツ どういたしまして。(老婆の背中に)体に気をつけなさいとダメよー。

老婆、トイシにかけこむ。
チカマツ、しばしその場に一人。
そして、去る。

ふすまがゆっくりと倒れる。
その後ろから「琵琶」が倒れる。
なつきから鳴っていた音がやむ。
静寂。

ややあつて、老婆、戻ってくる。

老婆 あれ……行っちゃったかー(ちよっとさびしい)……(足元の琵琶に気が付く)ん？……(ほこりを払う)まー、珍しい。あんだ、こんなとこに一人で、なにやってたの……

琵琶を手にとつて、ながめる。汚い、古い琵琶である。
老婆、ゆっくり部屋の中を見回す。
お供え。花。破れた畳。雨の音。

老婆 ……うわ、なんか寒くなってきた……ま、いっか。今日はあんだに御相伴願って一人花見としゃれこみますか……いやあ、おぞ。いいお腹してるわねえ、何ヶ月？

なごごぶつぶついいながら、老婆、琵琶を「お供え」の場所に置く。

老婆 いただきます。

「お供え」を食べ始める。
もくもくと、食べ始める。
暗闇が、訪れる。